横浜市小学校社会科研究会

３学年部会

研修会記録

第１号

令和3年　　7月　7日
横浜市小学校教育研究会
会長　後藤　俊哉
横浜市小学校社会科研究会
会長　梅田　比奈子
同　学年部長　引田　雄士

【提案日時】
６月１６日（水）

【会　場】
横浜市立　平沼小学校

提案　小池　智宏　先生（鴨志田第一小）
司会　引田　雄士　先生（中山小）
記録　宮原　美由紀先生（末吉小）

単元名：『わたしたちのまちと市～鴨志田のまちから横浜市へ～』

提案者より

・視点①「子どもの予想と見通しを大切にした単元づくり」の提案
・Google　Earthを活用して市の様々な場所を見て、興味を広げたり、単元の見通しをもったりするようにした。
⇔Google　Earthを示すときに、教師の意図が強く出過ぎたと感じる。
・身近な地域の学習をもとに、場所と場所の比較をしながら進めた。
・子どもの言葉を大切に身近な地域を取り扱う。
⇒教師の出（「発問、資料提示、言葉がけ」）などをどうするかを考えたい。
⇒子どもの必要感を引き出すための手だてについて

協議内容

身近な地域→市へつなげていくために

・**身近な地域を調べる視点→市を調べる視点につなげる。**
・自分の住んでいる地区が横浜市のどこにあるかを認識して考えることができるように。
→白地図などを活用して、自分が住んでいる区が横浜のどの辺に位置しているかを認識する。
・子どもが行ったことがある生活と関わっているものは出やすい。⇔関わりないものは出にくい
→他教科とのつながりも活用。

・市につなげていくための資料として、**教科書**や**わたしたちの横浜**を活用
→資料を生かしながら、子どもの興味に沿ってそれぞれが調べ学習を行い、横浜市につなげる。
・写真（教師の意図をもって選んだり、着目させたいことを考えて選んだりする。）を活用し、自分たちのまちと**比較**する。
→自分たちの地域の視点をもって市を調べることができるのではないか。

視点①の**予想**や**見通し**を大切にした単元づくりに向けて

・「何を」「どのように」「調べる順番」を子どもと考えることで学習計画を立てることができる。
　→**「どのように」**を整理していくことで、資料の必要性が出てくる。
　　（子どもにとっての資料の必要性が見えてくる。）
・**予想**を大切にする。→白地図を活用（海側に色を塗るなどをして示す。）する。
　予想をさせる手立て（何をもってそう思うのか）
　例：**自分たちの地域**は、緑が多いところは高いから、緑が多い地域は高いのではないかな。
　　→**子どもの言葉**で場所による様子の違いがどのように表れるか。

＜講師の先生より＞

３学年世話人校長　西富岡小学校　　黒田　由希子先生

・身近な地域を**どのように調べたか。どのようにまとめたか。**
　　→市を調べる視点につながる。

どのように調べたか。

身近な地域を調査するときに、まずは、屋上に登ってとらえた。
　　→まちを**俯瞰**してとらえた。
「横浜市も屋上から見られるといいな。」というような**子どもの言葉**。
　→Google　Earthで身近な地域と同じように横浜市を**俯瞰**してとらえる。

どのようにまとめたか。

身近な地域を**土地利用に着目して**白地図にまとめた。
　　→横浜市も土地利用に着目した視点が見えてくる。

・子どもたちがどのような**問い**をもつのか。（子どもの言葉を丁寧にみとる。）
　　→自分の予想や仮説をどのように調べていくか。
　　例：横浜市は緑の多い地域がありそうだ。
　　何を調べていけばよいかな。
　　・子ども自身が**主体的考える**ことにつながる。
　　・資料が**何で**必要のか。（子ども自身も資料の必要性）

単元を見通す学習問題につながる。

・第１単元「身近な地域や市の様子」は第４単元「市の様子の移り変わり」につながる。第１単元で着目したことを生かして、第４単元の視点へとつなげていく。

文責　　八木　浩司　（　南吉田小学校　）